

須賀川市立小中一貫教育校「稲田学園」令和2年度学園だより

とう りん 稲 雲

第23号

令和3年3月12日発行

発行者：校長 小貴 崇高



○稲田中学校最後の卒業式～大切な2つの校歌～

3月12日(金)、この学園だよりを9年生が読む頃には、卒業式が終了していると思います。体育館に響いた2つの校歌(稲田中校歌と「HOME」)。コロナ対策のため今年度なかなか歌えなかったのですが、9年生にとっては中学生最後の日に堂々と味わうように歌えたのではないのでしょうか。(写真は中学校卒業式練習での全校合唱)



稲田中校歌は、伝統ある校歌らしい校歌で、大中寅二作曲のどっしりとした響きの伴奏に、最後は「讃えよ永久に我が母校」と歌い上げます。また、「HOME」は、ポップな響きの中に岡本真夜さんの「みんなの笑顔でいっぱい みんなの愛がここにある」と明るく元気な子どもたちが見えるような歌です。どちらも大切な校歌です。

9年生の皆さん、稲田中学校最後の卒業生として、これからもこの2つの校歌を大切にしてください。稲田学園北校舎2階「ふるさと学習室」には、皆さんの歌声で記録した稲田中校歌の音源が試聴できるようにする予定です。成人式や同窓会等の際にもみんなで歌うなどして活用してほしいと思います。

○9年生を送る会～1年生から8年生の感謝の思いあふれ～



9年生の卒業を4日後に控える3月8日(月)、全校児童生徒1～9年生が参加する「9年生を送る会」を開催しました。体育館の換気につとめ、できるだけ短時間で、感染症対策を徹底しながら実施しました。児童生徒会役員を中心とした実行委員が、スクリーンに映った影でその物や人を当てるシルエットクイズや、懐かしい映像をまとめたスライドショーなどで盛り上がり、体育館が笑顔でいっぱいになりました。

最後には、サプライズで在校生全員から心のこもったプレゼントもあり、短時間でも9年生にとって思い出に残る会になったのではないのでしょうか。

○同窓会入会式～稲田学園同窓会会員は五千人を超えます～

3月2日(火)、同窓会長の橋本文男様をお迎えして、令和2年度同窓会入会式を実施しました。今年度で最後となる「稲田中学校」は、昭和22年4月に開校し、今年度の22名を加えるとこれまでの卒業生は5,017名となります。入会式では、橋本同窓会長より卒業生全員の入会が許可され、「新しいことに挑戦すること、出会う人から多くのことを学ぶこと、自分の目で見て体験して学ぶこと」など、人生訓となるお言葉をいただきました。



○毎朝の交通指導に感謝～9年生が感謝の色紙贈る～

9年生は、9年間学校に通ってきた中、毎朝の登校時に交通指導をしていただいていた地域の方々へお礼を伝えたいと、感謝の思いを込めた色紙を贈りました。

3名の皆様には、寒い日も暑い日も稲田学園の児童生徒の登校時の交通安全を図り、優しく見守っていただいております。稲田学園の児童生徒が毎日元気に登校できているのもこのような地域の皆様の支えがあってこそと心から感謝しております。そして、これからもよろしくお願いたします。



○稲田学園に春が来た！～メディアセンターの桜満開～

本校のメディアセンターに大きな桜のディスプレイが現れました。この桜は、学校司書の先生や図書委員会の児童生徒、9年生生徒、9学年担当教員が受験生の合格祈願や稲田学園のすべての児童生徒に春を感じてもらいたい、との思いで制作してくれたもので、写真からもその大きさがわかると思います。まるで稲田学園に一足早い春が来たようです。



☆卒業生へのお願い

須賀川市教育ポータルサイトにアクセスすると、稲田学園のホームページを見ることができます。また、ホームページにはこの学園だより「稲雲」も掲載します。卒業してからも学校の情報を知りたい場合は、ぜひアクセスしてみてください。きっと稲田学園時代の思い出が浮かんでくることでしょう。もちろん「いいね」もクリックして下さいね。

★ことばのちから(23) 「天高く 地に深く」

9年生の卒業式の校長式辞で、「はなむけの言葉」としてこの言葉を贈りました。

(校長式辞より抜粋) 皆さんにはなむけの言葉を贈ります。それは、「天高く地に深く」という言葉です。稲田学園の稲雲ホールに掲げられた大きな絵に添えられた言葉です。私は、この言葉に絵の作者である國井伸行先生の「稲田学園の子どもたちは天高く広がる雲のような大きな志を持ち、地に深く根ざす大木のように堂々と生きろ」というメッセージを感じています。

つまり、私は皆さんに大きな夢に向かって努力すること

で大きな人間に成長してほしいと願っているのです。ですから、この「天高く地に深く」という言葉を、あの大きな絵と一緒に胸に強く刻み、忘れないでほしいと思います。…

